

シオンの子

第 35 号
2015.11.30



小学4年 男児 ティラノザウルスとあそぼう！

自分の好きな言葉

高校二年男児

私が好きな言葉は三つあります。一つは仲間です。私が部活動を一度辞めた時に、部活の仲間達が何度も私に「戻って来い」と声をかけてくれました。まだ学校に慣れていない時だったので仲の良い友達といったら部活のみならずかいませんでした。部活の友達は朝練が終わると毎日、会いに来てくれたり、土曜日曜と友達とやった試合の話をしてくれました。私はみんなをある意味裏切ったのに、みんな何も無い様に優しく話しかけてくれました。本当に心から大切にしたいと思えました。そしてもう一度部活に戻りたいと思わせてくれたのです。なので仲間という言葉はとても好きです。

二つ目は勇気です。私が一度辞めた理由は、勇気がなかったからです。先生に言う勇気がなく、周りに相談する勇気がなく辞めてしまうことになったのだと思います。もしあの場で勇気があつたらしっかりと相談も出来て逃げることはしていなかったかもしれません。勇気がない分後悔がともりました。でも私に勇気をくれた人がいます。何度も何度も力になってくれた私の背中を強く押してくれました。辞めた後や失敗した時も声をかけてくれて勇気を私にくれました。そのおかげで今の自分がいるのだと思います。諦めようとしないうちや面と向かって言える勇気、沢山の勇気を与えてくれました。だから勇気という言葉も大好きです。

最後に好きな言葉は感謝です。私の味方になって怒ってくれたおじさん、私一人のために沢山迷惑をかけてしまった先生達。もう一度柔道をやらせてくれる環境を作ってくれた学校の先生達、私はみんなにとっても感謝をしています。だから私は部活動でしっかりと感謝の気持ち忘れずに三年間やりとげ、その中でしっかりと優秀な結果を残して、みんなに恩返ししたいと思います。

言葉は人に勇気をくれるものすごい力があるんだと実感することができました。なのでこれから先は自分の言葉に責任を持って頑張りたいと思います。

子持山学園「詩・作文コンクール」より

編集・発行

社会福祉法人子持山福祉会

〒377-0203 群馬県渋川市吹屋 201-1

児童養護施設 子持山学園

TEL 0279-23-1152 FAX 23-1153

ホームページ

http://www.komochiyama1952.com/

Mail komochiyama1952@mist.ocn.ne.jp

近頃思ふこと

社会福祉法人
子持山福祉会
理事長 島田卓爾

このところ気になって
いることに「政治問題・就中
(なかんずく)教育の問題」
があります。

政治は日常千変万化する
ものですが、総じて安倍政
権は将来を見据えしつかり
と施策を講じ可成りの成果
を上げていると評価してよ
いでしょう。反対勢力は、
とかく批判はするけれども
この難局を乗り切る政治的
具体策を何も示しておりま
せん。国内ではマスコミの
多くが反対勢力のサポーター
を任じて読者の認識を左方
向に導く、その傾向に危惧
を抱きます。

こうした時機にこそ、国
民の正しい歴史、伝統を呼
びおこし日本人として誇り
を持ち得る教育の重要性に
着目せねばなりません。

学生時代に、反政府運動
に夢中だった学生が何十年
して大学教授や小中高の教
師となり特定の思想の伝道
者となること当たり前で、
その多くが「安保法制反対」
や「自主憲法制定反対」な
どを叫んで世間にはびこる
姿は、何とも残念なこと
です。

政治・教育は国民の意思・
決定によるものであつて一
部偏向学者教育者の嗜好で
あつてはなりません。教科
書選択についても、各地域
の教育委員会の正しい判断
が期待されることです。

ひるがえつて児童養護を
担任する社会福祉法人の吾々
であつても、職員は教職員
としての役割も果たしつつ
園児たちに「親」として接
する重要な面を有していま
す。

立派な成人となり、社会
に恩返しのできる人
どんな境遇があつたとし
ても、自立心を持ち正しく
行動出来る人
に仕上げてゆく先生方であつ
て欲しいと思つています。

国や地方自治体そして多
くの有志の皆さま方から、
常々応援をいただき、お力
添えを賜つていることに園
児たちに替つてお礼と感
謝を申し上げます。

虐待について

考える

児童養護施設
子持山学園
施設長 望月栄一

先日テレビで、福祉施設

での虐待問題を取り上げて
放送していました。殴る蹴
るのシヨッキングな場面も
放映されていましたが、そ
れよりも気になった事例が
一つありましたので紹介し
考えてみたいと思います。

それは、ある障害者入所
施設で起きた事例です。

上司が食事の様子を見回つ
ている途中ある部屋で異様
に暖められた食べ物に気づ
いた。火傷をしては大変と

思い担当職員に事情を聴く
と次のような説明があつた。

その部屋では食事の介助
が必要な入所者が一人いる
が、その人の介助をしてい
るうちに、早く食べ終わつ
た他の入所者から様々な要
望が出てきたり入所者同士
のトラブルが起きたりして、
介助に集中できないので困つ
ていた。何とかうまく方法
がないかと思ひ巡らしてい
たが、食事を一緒に食べ終
わるようにすればよいこと
に気づいた。そこで、食べ
物を熱くして、早く食べら
れないようにすることを思
いつき実際にやってみたら
うまくいった。やってみたら
うちに徐々にエスカレート
し、今回のように異様な熱
さにまで熱するようになって
たとのこと。

そこで、上司がこれは虐
待に当たるのではないかと
指摘したところ、職員も気
づいて直ちに止め大事には
至らなかつた。

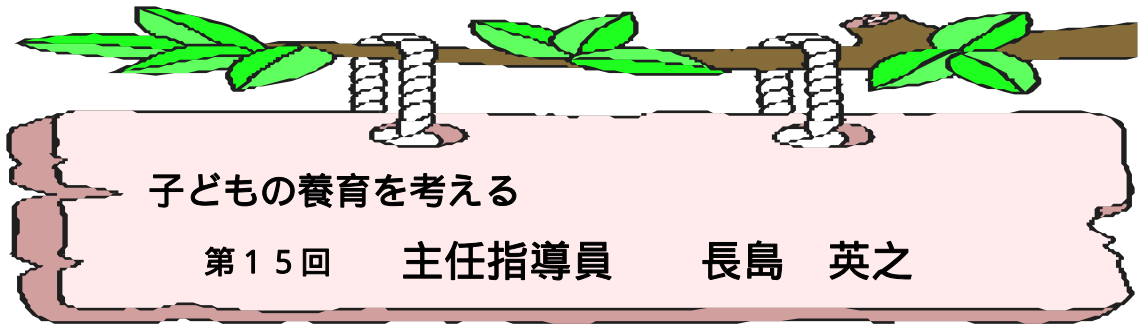
施設は市に報告。市の検
討委員会では、この程度を
虐待と言うかどうか賛否が

割れたが最終的には虐待と
認定した。

この事例から学ぶべきこ
とは、この類いの安易な考
え方は誰でも思いついてし
まいそつたと言つて事です。
しかも往々にしてそれが虐
待にあたる(発展する)こ
とに自分では気づけない、
あるいは気づこうとしない
ことがありそつたと言つこ
とです。厳しい目で自分自
身を見直すと同時に、仕事
上自分の殻に閉じこもるこ
となく職員同士互いに切磋
琢磨しながら向上していき
たいものです。

十月初旬には全国養護施
設協議会が開かれました。
席上、会長から「児童養護
施設における被措置児童等
虐待根絶のために」という
緊急アピールが提示されま
した。それ程事態は急を要
する状況であることを施設
では認識しなければなりま
せん。





子どもの養育を考える

第15回 主任指導員 長島 英之

一樹（仮名）は現在小学三年生、昆虫とカードゲームが大好き、明るくて人懐こい元気な男の子。

友だちと仲良く遊ぶ姿が印象的だが、少し想定外のことがあるとパニックになってしまふことも多い。一日の生活を振り返ってみると、集中が続かない、大声で言い返す、食事中にウロウロ…など生活の中で特徴的な行動がある。「ダメでしょ!!」

「何度言われたらわかるの!!」どうしてもそのような行動が目には映り注意される対象になってしまう。

子ども同士でも誤解が生じやすい一樹が周りのみんなと気持ちよく過ごせるようにフォローしたり、一樹のいいところを引き出そうと職員は試行錯誤の毎日だ。

一樹は、人の目を見て、はっきりと「こんにちわ!」と挨拶ができる。大人が両手に荷物を持っていけば「僕も持つよ!」と一番に手伝いを申し出ることが出来る。そんな一樹のいいところを見逃さないように、その都度しっかりと「誉める」ことで、一樹自身が「これでいいんだ」と思う気持ちを持っていききたい。そ

して、一樹の「いいところ」を待つばかりでなく、「いいところ」が出やすいように環境を整えておくことが大切だ。

例えば、靴の揃え方を教えておいて、それができた時に即座に「誉める」。色々な挨拶の仕方を教えておくことで、色々な場面で挨拶ができるかもしれない。要は、子どもを変えようとするのではなく、子どもへの働きかけを変えることが大切だと気付く。

ここ最近、入所してくる子どもたちを見ると、「育てにくい」「育ちににくい」子どもが増えている。これは、児童養護施設だけのことではなく、一般的にも言えるようだ。全国の児童相談所が対応した児童虐待相談件数は約八万九千件（昨年度）で、二四年連続で増加していることもそんな背景があるのだろう。

子育てにこれでもいいという答えはない。だからこそ、子どもの立場に立ってよりよい支援を考え続けていきたい。



学園を支えてくれる『ひと』

子持山学園でピアノのボランティアをさせて頂くようになって三年が過ぎました。ハキハキと元気よく明るい子どもたちと共に勉強が出来て、私の方が勇気を貰ったり癒されています。

人生を振り返りますと、悲しい辛い事など多々有りますが、幼少の頃より続けているピアノに助けられた事に気付き、ぜひ音楽の素晴らしさを伝える事が出来ればと学園に連絡しました。当初は経験不足で不安も有りましたが、今では毎週楽しくレッスン出来、時には演奏そつちのけでお喋りする時もあります。

バイエルや与えられた曲を弾いていた子が、最近では「あの曲練習してみたい」とか、学校の教科書を持って来たりと、前向きさと成長を感じます。年末の学園でのクリスマス会にも積極的に参加し、ピアノ演奏も披露しているよつで嬉しく思います。

優しい先生ばかりで見習う事ばかりです。音楽好きの子が増えてくれるようお願い致します。

鈴木音楽教室

鈴木文江



めぐみ・まことホーム

樋口 聖

今年の四月より新任職員として子持山学園で働き始めて早くも七か月が過ぎました。まことホームでは、先日、一人の子が卒園し、中学生二人、小学生二人、幼稚園児一人の計五人の明るい元氣いっぱいの子の女の子が、日々生活しています。

七か月が過ぎ、徐々に学園での生活にも慣れ始め、緊張ばかりしていた日々も落ち着きが出てきた。始めは、女子ホームに入るといふことに大きな抵抗があり、戸惑うことが多い。女の子は、普段何を遊んでいるのか、どんな趣味があるのかなど話をしている。話を考えることと戸惑いを隠せませんでした。しかし、戸惑っている自分を子どもたちの方から「一緒に絵を描こう」と言ってくれたり、他愛もない会話をしたり自分がホームのことでわからないことを教えてくれたりと子どもたちに助けられる場面が多くありました。そして、自分には料理が苦手、子どもたちの口に合うか不安に思いますが、子どもたちから「料理下手じゃないじゃん！おいしいよこれ！」と言ってくれた時はとても嬉しかったです。この言葉から子どもたちだけが成長するのはなく、自分自身も学園に来て新たなことを学び成長しているのだと感じました。

このように、優しさにあふれている子どもたちを温かい目で見守り、子どもたちの日々の成長に喜びを感じながら、今の自分からサポーターを一生懸命して子どもたちの見本となるように自分も更に成長していきたいと思えます。

園内保育室より

萩原 啓子

十月は、お出かけの多い月です。まず一日に、未就園児が利用している「こあらクラブ」の運動会、三日には幼稚園の運動会が行われました。子どもたちが出場する種目の応援には熱が入り、一生懸命頑張っている姿に、拍手の手が止まりません。

五日、幼稚園の運動会の代休を利用して、「観音山ファミリアパーク」に行ってきました。雨の予報でしたが、子どもたちのパワーで、お日様も、顔を出してくる絶好の行楽日和となりました。ふわふわドームで幼稚園児は躊躇なく、遊び始めましたが、小さな子は、怖くてすぐには遊べませんでした。しかし大きい子が遊んでいる様子を見ながら、ふわふわドームの上に登りジャンプし、あつという間に跳ねたり、走り回ったりして、仲間に入って遊ぶことが出来ました。その習得の速さには驚き、ここでも拍手喝采をしました。お昼ご飯は、ホームの先生達がつってくれた、愛情たっぷりのお弁当に舌鼓をうち、昼食後もローラー滑り台や芝滑り、一輪車、自転車など飽きることなく公園でたくさん遊びました。

二八日、洪川ロータリークラブ様の招待により、学園全体で東京デイズニードに行ってきました。ハロウィンのイベントで、デイズニーキャラクターに仮装をした子ども達は、とても可愛い、パーク内でも、「かわいい」「一緒に写真撮らせてください」と声をかけられるほどでした。

子どもの成長をホーム担当の先生たちと喜んだり、感動をしている子どもの姿を、間近に見ることができ、とても嬉しいです。これからも、どんな事に感動し、そして、どんなに大きく成長するのが楽しみです。



のぞみ・わかばホーム

江口 桃鹿

四月から新任職員としてこの子持山学園で働き始め、七か月が経ちました。私が担当しているホームはのぞみホーム七人、わかばホーム七人の計十四人の男の子達です。同じ男の子ホームでもそれぞれ違った色があり、毎日楽しく子ども達と生活しています。

のぞみ・わかばホームには高校生もいます。私と年が近いこともあり、初めの頃はどう接して良いのかわからずあまり会話をしない日々が続きました。このままではいけないと思い、ある日勇気を出し、私から積極的に話しかけてみました。すると少しずつですが会話をできるようになりました。今では大笑いしあえるくらいになりました。

新任として働き始め、わからない事、不安な事ばかりで毎日あたふたしながら生活をしていました。そういった事を感じとってくれ



ているのか、さりげなく手
伝ってくれたり、教えてく
れたり、優しさであふれ
た子ばかりで、私自身も見
習わなければと思う事も多
くあります。
生活していく中で、子ど
も達と意見があわず、話し
合ったりする事もあります。
話し合う中で子どもから私
の伝え方が嫌だったよ、な
どと教えてもらおう事もあり
ます。自分一人では気付く
事の出来なかつた事を教え
てくれるのも子ども達です。
子どもの成長を見守れる中
で、私自身も成長させられ
ているのだと感じます。
まだまだ未熟ですが、毎
日の生活の中で、子どもの
気持ちに少しでも寄りそえ
るよう試行錯誤しながら、
子どもの成長と共に私自身
も成長していけるよう、精
一杯頑張っていきたいと思
います。

心理室より

田中 朋子

子ども達の生活を担って
いる職員から時折、「子ども
にも指導をしてもまた同じ
ことを繰り返すのです。注
意の仕方が悪いのでしょうか。」褒めても、それが
浸透していかないようで...ど
うしたら愛情が伝わるので
しょうか。」と相談を受け
ることがあります。どこに
難しさがあるのでしょうか。
最近の研究において、子
ども時代に不適切な養育を
受け、愛着がうまく形成さ
れなかった場合、脳の発達
に影響を及ぼすことが分かっ
てきています。「やる気」
や「意欲」にかかわる部位
の活動が低下しており、こ
れは即ち「褒めること」を
主眼においた関わりの効果
が少ない可能性を示唆する
とのことでした。

さて困りました。従来の
「褒めて伸ばす」子育てや
心理療法のありかただけで
は足りないのだよ、と言わ
れているのです。心理職と
して、こうした実態に即し
た明快なハウツーを持ち合
わせているかと問われれば
恥ずかしながら現時点での
答えは「ノー」です。だか
らといって「何もなくて
良い」ということでは勿論
ありません。答えは自分達
で探すしかないのです。
心理室に入ること難し
く泣いていた子が、「先生
これあげる！」と絵を描い
て持って来てくれた時。セ
ラピーの場では思うがまま
に「お姫様」を演じていた
子が、日常生活で出会った
際「先生、手伝うよ！」と
駆け寄ってきて荷物を運ん
でくれた時。些細な場面で
すが、その子自身の成長を
感じるとともに、日々身近
で関わっている大人達の姿
を背後に感じ取ります。
「子どもは、養育者の言う
通りに育つのではない。養
育者のするとおりに育つの
だ」とは、どうやら真実の
ようです。今後とも私自身
子どもの成長する力を信じ
子どもに背中を見られてい
ることを忘れずに進歩して
いきたいと思えます。

ほしホームより

星野 采香

学園に就職して二年目、
二回目の夏休みをほしホー
ムの子どもたちと過ごしま
した。あつという間に一年
半が経ち、子どもたちの姿
を見ると見た目はもちろん、
心も大きく成長したなと感
じる毎日です。
ほしホームでは現在、幼
稚園の年中・中学二年生ま
での女子六人が生活してい
ます。六人も素直で優し
く、笑顔がとてもかわい
い。大切な子どもたちです。朝
みんなを「いつてらっしや
い」と送りだし「おかえり」
で迎える毎日ですが、帰っ
てきた瞬間「ねえ！聞いて
よ！」と何やら怒っていた
り「今日はね！」ととても
嬉しそうだったり、子ども
たちは我先にと話をしてく
れ、私にとって大好きな時
間になります。同じ毎日の
繰り返しようですが、一
日一日を一生懸命に生きて
いるんだなと改めて感じる
ことができます。子どもの

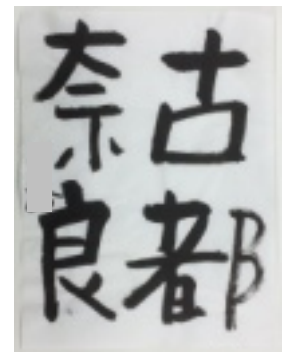
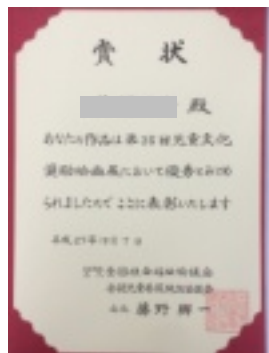
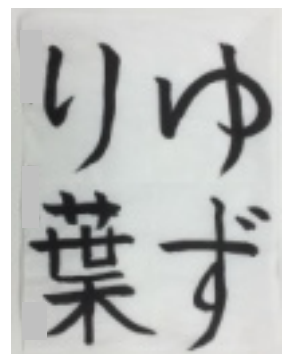
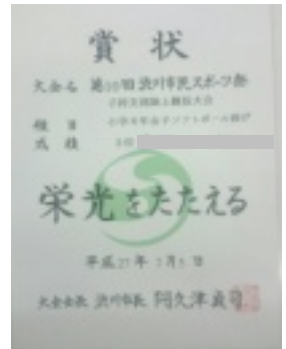
少しの変化にもきちんと気
づけるよう一人一人を理解
し向き合うことを意識して
います。
二年目になり、担当にな
り、正直不安でいっぱい
なる時があります。子ども
たちのことをしつかり見れ
ているのか、子どもにとつ
て安心できる存在になれて
いるのか、自分一人ではな
かなか気付くことができま
せん。失敗する事もありま
す。ほしの子はいつも「大
丈夫？」と心配してくれた
り「もう、ほっしーは...」
と笑い飛ばしてくれて、
この子たちに支えられてい
るんだなと気付かれます。
少しずつ子どもたちも甘
えやわがままを見せてくれ
るようになりました。「い
つも見てるよ」というこ
とを子どもに伝え、一人一
人を受け止めてあげられる
よう、私自身も努力したい
と思います。笑顔いっぱい
のホームになれ
るよう、子ども
と一日一日を大
切に過ごしてい
きたいです。



活動報告

平成27年5月～平成27年11月

- ・子持山学園「子どもの日の集い」
 - ・教会ピクニック
 - ・ダイヤモンドヘガサス観戦招待
 - ・Westie-観戦招待
 - ・レクリエーション(ドッジボール等)
 - ・田植え体験
 - ・J.R東労組様招待
 - ・映画上映会、ボウリング招待、文化祭
 - ・ソフトボール大会
 - ・夏休み
 - ・各ホーム旅行、育成会行事
 - ・(お祭り、納涼祭等)
 - ・渋川教会キャンプ、学園納涼祭
 - ・お弁当コンクール、お泊り保育等
 - ・群馬県児童養護施設連絡協議会
 - ・ドッジボール大会、調理実習、ソフト
 - ・ボール大会、ミニサッカー大会
 - ・いのちの講話(群馬県助産師会主催)
 - ・自治会ファミリー運動会
 - ・理容カットボランティア
 - ・栗拾い(春日園様のお手伝い)
 - ・芋ほり、栗拾い
 - ・子どもの教会合同礼拝
 - ・東京デイズニールランド招待
 - ・(渋川ロータリークラブ様)
 - ・県ALT交流会
 - ・握り寿司ご奉仕(小政館様)
 - ・七五三児童祝福式
 - ・山田昇財団自然教室
 - ・渋川チャイルドゆめフェスティバル
 - ・その他、多数の招待、寄贈
 - ・ご奉仕などに感謝
- 平成二七年一〇月入所児童状況
- ・ 幼児 七名
 - ・ 小学生一九名
 - ・ 中学生一一名
 - ・ 高校生二二名
- 計四九名





SBI子ども希望財団

SBI子ども希望財団は設立母体であるSBIグループの社会貢献活動を契機に虐待やネグレクト（養育放棄）といった厳しい環境に置かれた子ども達の福祉の向上を目的に設立された。それ以来、児童福祉施設への寄附、児童養護施設等の職員を対象とする研修、子どもの虐待防止の啓発活動等、児童福祉向上のための支援を行っている。この程内閣総理大臣より公益財団法人の認定を受けSBIグループのみならず様々な企業や個人の共感者の方々の賛同や協力を得て、これまで以上に児童福祉の向上に取り組みたいと考えている。

公益財団法人SBI子ども希望財団 無限の可能性をもつ子どもたちに、私たちができること
『未来を担う子ども達のために』
田淵義久
より引用

**SBI子ども希望財団児童養護施設職員
【東日本第11回】研修会に参加して
児童指導員 柳井 朋子**

平成二十七年一月（前期）と七月（後期）の計六日間、標記の研修会に参加した。

前期研修では「アタッチメント形成」を中心に施設における支援や虐待を受けた子ども達の治療的教育のあり方を学んだ。アタッチメント（愛着）がつきやすい時期は幼児期、十歳くらいまでといわれているそうだ。また、アタッチメント障害により無差別的な愛着性やADHDのような行動（注意・衝動）の調節障害があるという。子どもが言葉にしない感情を言語化する事、子どもの視点からライフヒストリーを聞き成育歴も含め良く知り、職員と子どもの関係性を作って行く事が重要であり、過去・現在・未来を連続性を持ってあげられるような支援が必要である。

後期研修では、施設内虐待の理解と対応、ファミリーソーシャルワークのあり方を学んだ。また前期研修を受け、後期研修へ向けて取り組んだ課題についてもディスカッションを行った。恥ずかしい話であるが、この研修を受ける前から私自身処遇の中で子ども

との関わりに問題を抱えていた。感情的になる子どもに巻き込まれ私自身が感情的に怒ってしまったったり、上手く伝えられなかったりしていたが、前期研修の講義でカウンセリングの基礎を学び、「理解的態度を示す、子どもに謝罪する」を課題にして取り組んだ。今まで気持ちを受け止められていなかった事、寂しい気持ちに気付いてあげられなかった事を謝罪した。劇的な変化が現れたわけではないが就寝時に帰省中の話や学園に措置される前の話をしてくれるようになったり、私自身も感情的になる前に一呼吸置いて付き合う事が出来るようになった。施設内虐待の理解と対応では、厳しい指導が有益であるわけではなく、罪悪感を持ってもらう事が大切、職員一人一人の養育観の違いや余裕がない事で施設内虐待が生まれてしまつ。そうならない為にしっかりとアセスメントし、同じ意識で子ども達と関わって行くようにする事が重要であると学んだ。

現在、子持山学園では職員会議前にケース会議を行って

いる。子ども一人一人に対して職員全員で課題に対しどんな支援ができるか考える事はとても重要であると再認識した。共有してもらったり、アドバイスして貰える事で助けを求めやすい環境にあるのではないかと感じる。子ども一人一人違う課題を持っているため、ケースカンファレンスを丁寧に行い職員と子どもの関係性を作って行くことが重要である。子どもの行動を理解して行く事の重要性や丁寧一人一人にしっかりと向き合つてより良い支援をしていきたいと思う。



お心遣いご感謝致します

寄付金 (15・5・15・10) 敬称略・順不同

中村光孝、狩谷智治、蛭川かつ子、坂庭昇、(有)孔文社印刷、大鐘真勝、小野澤昇、近藤みさ子、春山商店、松田千穂、森英明、子持地区社会福祉協議会、群馬県社会福祉協議会(毎月建設、三愛社、春日園、ミート星野、陸川恭太、石坂孝雄、矢内晋作、大場壮次、小澤勝治、松田次夫、小澤精肉店、横山鉄男、佐藤隆夫、渋川教会子どもの教会、飯島克二、横手商店、島田高子、高橋とみ子、宮下一男、原澤重子、柳井元子、山口道子、新島学園短期大学、埴田昭三、並木なつ江、長島寛く、んま風の家、日本善行会群馬県北毛支部、野田幸二、藤井孝子、齋藤正子、竹之内久子、石原真雄、石岡幸利、島田昌子、豊田誠一、町子、狩野善喜子、海野義政、坂本真次、木村久子、荒木彩乃、小野宇三郎、田中七郎、飯塚由美、中澤文子、小川一成、石坂恒二、布施英俊、佐藤勇、中野順夫、秋山堅司、齋藤實、宮下智海、石原正巳、鯉沢自治会、島田卓爾(株安野電気、斉藤医院、子持郵便局、(株)旭石工業、渋川中央ライオンズクラブ、石北医院、太田翔平、大類博史、小島昭、伊香保地区更生保護女性会、赤城地区更生保護女性会、群馬県遊技業協同組合(社)日本善行会群馬県北毛支部、望月栄一、羽鳥賢一、星野義夫、小金静枝、子持地区更生保護女性会、入澤達也、木村二都子、大塚廣末、吉岡町更生保護女性会

寄贈物品

南澤建設、中田靖哲、陸川千絵、山崎健一、石坂美和、JR東労組高崎地本、遠藤昌男、熊本ちい子、山口史人、釘島伸博、黒崎資子、綿貫澄夫、高橋寿江、榊林律子、石倉秀樹、中澤達雄、茶の花福祉会さやま大樹作業所、高橋春美、野口とき子、福島明美、狩野玲子、中新井要子、大川原美樹、須田集、丹羽絵、(株)群馬ヤクルト販売、鄧晶音、藤田奈保子、渡辺春彦、伊藤悦子、群馬医薬品卸協同組合、高橋尚弘、小沢一二、(株)モキカパン本店、横手俊夫、五十嵐研介、小池みよ、清水さす江、今井貢

匿名の方、他各位

ボランティア

児童交流 須藤いづみ、ベティマツ、サイジ、林弘子、ハンドマツ、サイジ、竹之内邦江、書道 山口道子、大塚廣末、絵画教室 ビンキオ絵画教室、学習 群馬県青年赤十字奉仕団、横澤香、福本亜美、ピアノ 鈴木音楽教室(渋川市)、カットボラ、髪切美匠、飯塚勇介、群馬県理容生活衛生同業組合渋川支部、畑作業 篠原徹、お寿司奉仕 小政館

掲示板

・苦情解決報告 計0件 (平成二十七年四月〜平成二十七年一〇月)

ご支援・ご招待等々、ありがとうございます。心から感謝しております。

県共同募金会様「NHK歳末たすけあい」普通自動車免許取得のため一名の高校生が一入二十万円の支援(配分)を受けました。県民の皆様のご善意に感謝します。

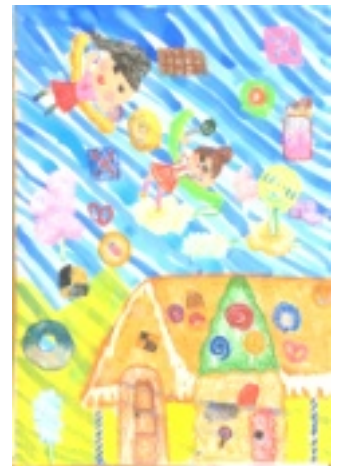
㈱ニラク様(渋川有馬店、渋川白井店) 毎月2と9の付く日にお菓子のプレゼント。

West One様 プロレス観戦招待。臨場感がすごい!!

渋川ロータリークラブ様 全員をデイズニランドへ招待頂きました。

山田昇記念財団様 小学生を自然体験会に招待頂きました。

リフレット基金事業財団様 自転車計六台の寄贈。グリーンドーム前橋で贈呈式と自転車乗り方教室を開催していただきました。



小2女兒 おかしといっしょにとびたいな

JR東労組高崎地本様 旅のプレゼントやソフトボール大会など、多くの行事に参加させて頂いています。高崎和ライオンズクラブ様 七五三写真撮影のご奉仕。群馬県助産師会様 「いのちの講話(性教育)と題して小学生、中高生にそれぞれ講話を頂きました。県内ALITの皆様 他国の方々と異文化交流。(九回目) 小政館様 子どもたち全員がお寿司を頂きました。目の前で握ってもらえるなんて、贅沢!! 日本善行会群馬県北毛支部様(2/9) 毎年恒例、臼と杵でお餅つきのご奉仕。群馬県児童養護施設連絡協議会や群馬県等に寄付・寄贈頂き、県内の各施設に配分されています。皆さまの温かなお心遣いが届いております。以下お名前のみ紹介しませう。 ・多くの匿名の皆様(衣類、おもちゃなど) ・伊達直人様 (商品券、ランドセル) ・星野総合商事様 (寄付) ・武藤俊彦様(プロゴルフ) (お米、洋米、洋服、野菜、果物、子どもとの触れ合い、励まし、寄付等々、大勢の皆さまの温かな善意の上に私たちの生活が成り立っております。今後とも宜しくお願ひ申し上げます。

北極星

先日、子どもと近くでやっていたお祭りへ歩いて行ってきました。帰りがけに子どもが「このまま、散歩しよう?僕、押しボタン押してみたい」と一言。時間もあったので、そのまゝ二〇分ほど歩いて押しボタン信号の所へ向かいました。わくわくさせて子どもはボタンを押し、手を挙げて歩道を渡ります。渡り終えたあとに、K君がボタンを押して信号が赤になったね。車が何台停まってくれたかな?どうしても渡らないといけないときは仕方ないけれど、遊びで押しちゃうと車の人が困っちゃうよね」と話しました。子どもは車の台数を数え、「いっぱい停まってる」と言い、何か思った事があるような表情をしていました。 日常の中で、ルールや一般的なことを子どもに伝えている事は多くあります。ですが、「いっしょ」において、その場で教えるほうが共得るものが多い様な気がしました。帰園後、子どもから「次は前橋まで散歩ね!」と言われ、それは無理です!と答えたところある休日でした。

(飯島 梓)

都筑さんをお招きして収穫のお祝い



田植え体験をさせてもらいました。おいしいお米と一緒に頂きました。(都筑さんは都筑保育土のご両親です)